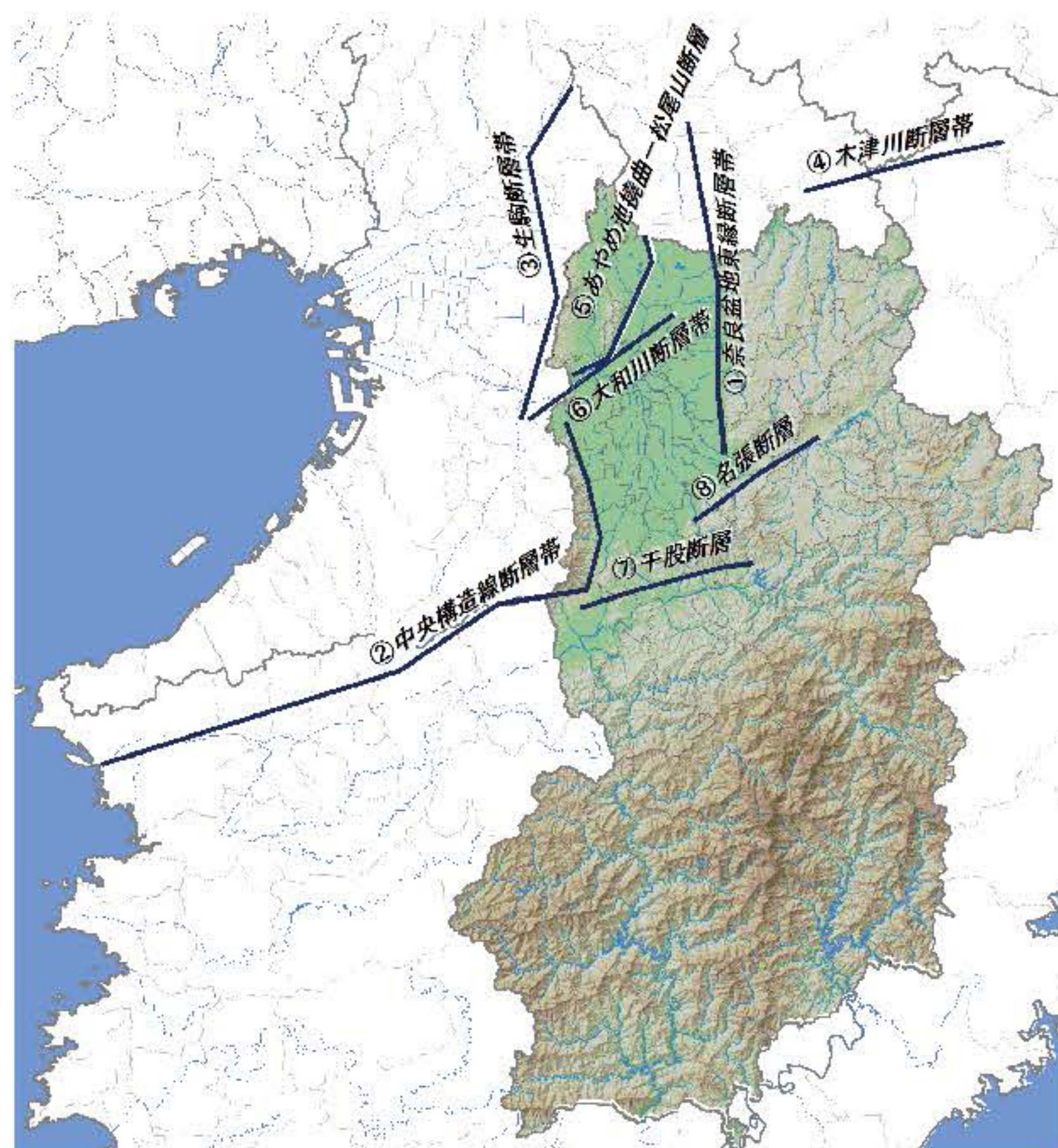


1. 天理市で注意しなければならない 地震：奈良盆地東縁断層帯地震

奈良県には8つの活断層があります。

奈良県には地震を起こす8つの主要な活断層*1の存在がわかっています。そのうち、天理市に最も大きな被害をもたらすのは、奈良盆地東縁断層帯地震です。この地震が起こる原因は、和歌山県潮岬沖約100kmをほぼ東西方向の海底に横たわる南海トラフで、南から押し寄せてきているフィリピン海プレートが、本州と四国、九州の下に潜り込んでいるからです。これによって、奈良盆地東縁断層帯にひずみエネルギーが溜まります。したがって、南海トラフ沿いで周期的に発生するプレート境界地震と、奈良盆地東縁断層帯地震のような内陸活断層地震の活動には、密接な関係があることが最近の調査でわかってきました。

(*1:過去数十万年以降に地震を起こし、将来も繰り返し地震を起こす断層)



奈良盆地東縁断層帯は、北部の奈良市内では、主断層の位置がわかっていますが、天理市域では存在がそれほど明確でなく、数本の枝断層(撓曲と呼ぶ)に分かれて南下していると想定されています。

長期評価では、平均活動間隔は約5,000年で、マグニチュードは7.4程度、今後30年以内の発生確率は、ほぼ0～5%と指摘されています。